

しんらんさま

■ 楽曲データ

歌詞：滝田常晴 作詞

楽曲：古関裕而 作曲

発表：真宗各派協和会

初演：「親鸞聖人鑽仰講演と音楽の夕」 1961年3月9日 本願寺会館

初出：『親鸞聖人を讃える歌』 真宗協和会 1961年

管理番号：M1379

■ 創作の経緯

真宗各派協和会（現・真宗教団連合）が「親鸞聖人を讃える歌。聖人を仰いで強く明るく正しく生きぬく生活の歌で詩形は自由とし一般に親しく歌えるもの」という内容で、1960（昭和35）年8月から9月にかけて歌詞を募集。10月1日に入選歌詞発表、同年12月には作曲も完成し、翌1961年に《光のなかに》《みんななかよく》とともに発表。島倉千代子による歌でレコード化された。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『親鸞聖人七百回大遠忌募集讃歌 親鸞聖人を讃える歌』 西本願寺
[発行年不明]

比較資料：オーケストラスコア自筆譜（古関裕而記念館蔵）

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

《しんらんさま》は、親鸞聖人700回大遠忌を記念して発表された仏教讃歌です。ゆったりとした演歌調のメロディーで、親しみやすい作品となっています。レコードに吹き込んだのが、当時スター歌手として有名だった島倉千代子さん（1938～2013）だったこともあり、多くの人びとに愛唱されました。

詞は私たちの日常生活の場面をとらえ、南無阿弥陀仏とお念仏を称えれば、しんらんさまがどんな時でも私のすぐそばにいてくださる、と分かりやすく表現しています。また、親鸞聖人の「御同朋・御同行」精神が、詞のなかに織り込まれています。

◆ 作詞者・作曲者について

作詞の滝田常晴は、1922（大正11）年、青森県生まれ。15歳で初めて公募に挑戦して以来、アマチュアの作詞者として社歌やCMの歌詞などを書き、作

曲・録音されたものも多いようです。

作曲の古関裕而は、1909（明治42）年、福島県生まれ。小学校の頃に作曲を始め、福島商業学校（現・福島商業高等学校）を卒業後、地元の銀行に勤務しながら作曲の勉強を続け、2年後にはレコード会社の専属作曲家となり上京。《長崎の鐘》《イヨマンテの夜》《高原列車は行く》などの歌謡曲や、《鐘の鳴る丘》《君の名は》などのラジオドラマの主題曲を書き、1989（平成元）年に80歳で亡くなるまで、数多くのヒット作を生み出しました。仏教讃歌では、《しんらんさま》のほか、《みひかりの》《青草は》を作曲しています。

◆歌い方について

- ①演歌調の曲です。「こぶし」は適度に使いましょう。
- ②全体的に暗くならず、明るい発声を心がけましょう。
- ③基本的には、4小節をノンブレス（息継ぎをしない）が望ましいのですが、息継ぎをするときは音楽の流れが途切れないように注意しましょう。
- ④7小節目1拍目、「ド」の音が正しい高さで歌えるようにしましょう。
- ⑤8分音符が2つ続くところでは、ひとつめを少しテヌート（音の長さを十分に保つ）ぎみに歌いましょう。下降音階のところでは、テンポが速くならないよう心がけましょう。
- ⑥9小節目「なも」のところで音が1オクターヴ上がります。正確な音程が取れるように練習しましょう。
- ⑦16小節目、20小節目のふたつめの2分音符は、長さを十分に保ちましょう。
- ⑧21・22小節目の上昇音階が、なめらかに歌えるように練習しましょう。
- ⑨最後のフレーズ（21～24小節目）は、歌詞をよく味わって歌いましょう。

◆用途

親鸞聖人の降誕会や報恩講、月忌法要などで、ぜひ歌ってください。

◆楽譜・音源

音源は、CD『日々のうた 念仏』（独唱）、『歓喜』（カラオケ）に収録されています。また、二部合唱版の楽譜は、『讃歌集 二部合唱』第6巻に掲載されています。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 17（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第142号収録）を加筆・修正のうえ、転載。